

太平洋イカ類漁場調査

(抄 録)

今村 豊・黄金崎 栄一

2001年6月～10月に西経175度以西の海域において、試験船東奥丸(140トン)でイカ類の漁場調査等を実施した。調査は7、9月の計2回行なった。

スルメイカ

2001年本県太平洋沿岸に来遊したスルメイカは、白糠で昨年同日の6月13日、八戸では昨年より13日早い6月19日に初漁がみられた。

白糠の漁期入りは例年並みで、漁期終了までの累積漁獲量(ウオダス漁海況速報より)は1,071トン(前年約1,191トン)の漁獲となり、前年をやや下回ったものの、CPUE(1隻1日当たりの漁獲量)でみると、2001年は0.28トンで前年の0.22トンを上回った。

八戸の漁期入りは例年より早かったものの、低調に推移し、漁期終了までの累積漁獲量(ウオダス漁海況速報より)は約2,979トン(前年5,445トン)となり、前年の約半分にとどまった。しかし、CPUEでみると、2001年は0.71トンで前年0.86トンを下回ったものの、漁獲量ほどの落ち込みは見られなかった。

2001年の太平洋小型いか釣船によるCPUEは、0.59トンで2000年の0.53トンを上回った。

発表誌：平成13年度いか釣漁場開発調査資料27号及び平成13年度外洋性イカ(スルメイカ・アカイカ)に関する生物測定・標識放流・海洋観測結果基礎資料集 青森県水産試験場